



2019年8月28日
東日本旅客鉄道株式会社

ミャンマー国鉄からの駅、線路メンテナンス部門の研修生受入れについて ～国際鉄道人材育成の施策第二弾を実施します～

- JR東日本グループは、グループ経営ビジョン「変革2027」でESG経営の一環として「国際鉄道人材の育成」を掲げ、第一弾として、「JR東日本 Technical Intern Training」を実施しています。本年4月よりベトナムから11名の実習生を技能実習制度により受け入れ、大宮総合車両センターにて車両メンテナンス業務の実習を行っています。
- このたび、第二弾として、独立行政法人国際協力機構(理事長：北岡伸一、以下「JICA」)が窓口となり、東日本旅客鉄道株式会社(代表取締役社長：深澤祐二、以下「JR東日本」)が、ミャンマー国鉄より3名の研修生を受け入れ、研修を行います。
- 今回の研修では、JR東日本で初めて、駅及び線路のメンテナンス職場において、OJT形式の研修を行います。国際的な鉄道人材の育成を通じて日本とミャンマーとの友好関係を構築するとともに、今後も実習分野や受け入れ対象国を拡大しながら、アジア地域の持続的な経済発展に貢献していきます。

1. 概要

- ・ミャンマー国鉄の駅業務従事者2名、線路メンテナンス業務従事者1名の合計3名を受け入れ、それぞれの専門分野において研修を行います。
- ・研修生の在留資格は「研修」です。

2. 研修内容

<駅サービス分野>

(1) 期間

2019年9月17日～12月16日(約3カ月)

(2) 研修箇所および内容

- ・上野駅にて約2カ月間、お客さまへの列車や各種設備のご利用案内、異常時における情報提供等の駅サービス業務をOJT形式で学びます。
- ・また、東京地下鉄(株)、ひたちなか海浜鉄道(株)、東京モルルール(株)、ジェイアールバス関東(株)、(株)東日本環境アクセスのご協力をいただき、各社の駅業務や清掃等駅関連業務も実施します。



【駅サービス業務の様子】

<線路のメンテナンス(保線)分野>

(1) 期間

2019年9月17日～2020年3月2日(約6カ月)

(2) 研修箇所および内容

仙台保線技術センターにて、各種線路検査や現場調査等を通じて在来線における線路メンテナンス業務の流れをOJT形式で学びます。



【線路での検査業務の様子】

(参考)

■ミャンマー国鉄(Myanna Railways)について

ミャンマーにおける最初の鉄道は、1877年にヤンゴン・パイ間にて延長259kmで開業しました。現在は、営業キロ約6,110kmの路線網を有します。

ミャンマー最大の商業都市ヤンゴンと第二の商業都市マンダレーを結ぶ重要路線であるヤンゴン・マンダレー線(約620km)やヤンゴン市内の環状線(一周約46km)の改修事業、鉄道車両維持管理・サービス向上プロジェクト等が、JICAの支援により実施されています。

■今回の実施スキーム図

